

有限会社ワイ・イー・ワイ ニュースレター

2025年1月15日

YEYはAIと終活、葬儀社、そしてニャンコを手助けする会社です



AI端末の進化 どんなものがあるのか？

昨今、AIの進化は止まるところを知りません。



今はヘッドギヤやメガネまであります。

でもそれはあくまでも視覚的要素からの情報です。

それは何をやっても双方向性とは言えないです。

ちなみに私のボストン大学工学部の同級生が卒業後にヒューズ・エアクラフト社でF/A18の夜間爆撃用で利用するナイトスコープの仕様書を作っていました。目をトラッキングすることで敵機にロックオンすることも。

これは IHADSS と呼ばれるもので、Apacheなどの軍用ヘリのパイロットが活用しています。

(https://en.wikipedia.org/wiki/Helmet-mounted_display)

視覚からでは足りない

AIを活用するに一般的にこういうヘルメットをつけるわけにはいかないのと、そもそも自宅以外でこれをかぶるわけにはいかない。

ランボー、ターミネーター、コマンドー、トロンかオブリビオンかって。

もちろんスピーカーとマイクがあることは必要です。
人間が簡単に司令を伝えることができるのは言葉です。

そう、言語が重要です。

つまり、マイクとスピーカーからの音声入力です。

それなら普通のケータイからでよくないかと思われがちですが、よく考えて
いただきたいのは何か作業をしていて、手が離せないことはよくあります。
それがアマゾン・アレクサやGoogle Homeです。

しかしあれは、自宅に固定されていますので、常に持ち歩くことが出来ませ
ん。

持ち歩くならスマホでと・・・だから手が離せない運転とかや料理中などは
いかがでしょうか？



ソリューションはネックスピーカーマイクです。

「ながらスマホ」で階段から落ちることはないし、安全です。

唯一の欠点は他人に会話が聞こえてしまうのと、騒音の中では音が聞こえづらい。

とくに運転中でロードノイズが大きいとき、聞きづらいことは確かなのは耳からスピーカーが遠
いから、タイヤの音で消されてしまいます。

それならイヤホン型にすればいいのでは？

はい、そうです。だが、道交法では活用出来ないのも、一番便利なのは片耳利用でもできる有線
型イヤホンが付属している仕組みが望ましいわけです。そこでかなり自由度が上がります。

バッテリーも比較的に大きいのでかなり時間的に活用できます。

そこにエージェントを組み込むことで作業が一弾と進むわけです。

すでに秘書が隣にいる感じになります。

こちらが去年9月17日に発表されたシャープのウェアラブルデバイスの「AIスマートリンク」で
す。



<https://corporate.jp.sharp/system/files/inline-images/240917-a.jpg>

さて、次世代端末はもっと軽く、もっと効率よく、もっと安全に、そしてもっと正確に。

大切なことはこのような装置にはデータ用のeSIMが搭載されていることです。

物理的なSIMは必要ないです。

どこでも気軽にネットワークに接続できるように。

もしWiFiが必要ならそれこそ、スマホ経由でブリッジを組みSSIDを選択、そしてパスワードはスマホ経由で入力してもらうことが望ましいでしょう。

いくつか例を考えて見ましょう。

1) 通訳

まず、活用としてはリアルタイム通訳が可能になります。

翻訳アシスタントとして世界中どこでも利用できることで会話や交渉に困らないことになるでしょう。旅行やビジネスシーンでさまざまな情報とガイダンスを得ることが可能になります。それに相手の情報を即入手できるなら、その特定の相手への交渉もうまくいくかと思います。反則ですか？

2) コーチ

次にパーソナルコーチにもなります。

そのパーソナルコーチは運動や食生活にも適用できるはずです。

末端にカメラがついていれば、何を食べているのかも把握出来ます。

スピーチのプレゼンの練習、発音、呼吸法などにも活用できるようになります。

3) メモ

インテリジェントメモや議事録作成にも用途があります。

「メモ」と伝えるだけで数秒前の状況からメモをすることで商談の大切なことを聞き逃さずに活用できるようになります。

議事録作成にも応用可能となるでしょう。

eSIMを備えていることでクラウドに情報をアップすることが可能となり、データを端末に保存しておく必要がなくなります。

そのような内部のメモリーを極力使わないことで事故が防げるかと思います。

もちろん内部メモリーはクラウドの接続できないときに活用することで必要不可欠です。

4) 秘書

AI秘書としても可能になります。

実際、そうなりますとエージェントとなりメールやカレンダーなどを読み、要約だけでなく、適切な返事も含めて他のアプリとの連携を取ることができます。

5) ガイド

AIガイドとして視覚障害者や聴覚障害者、高齢者へのガイドを促すことが可能になります。

マイク、スピーカー、カメラ、そしてバイブレーションによって道を案内し、ガイドブックの役割にもなります。色もきちんと把握することで、色弱の人たちへの補助にもなります。

スマホ同様にGPSと加速度センサーを有することで威力は発揮するでしょう。

まして、逆走などしたりしたら大音量などで警告を促すことも。

実は先週、茅ヶ崎で散歩中に高齢者が一方通行の道を逆走しているのを見て、通行人からの指示でやっと気づいたのを遭遇しました。

本人、どうしたらいいのか迷っていたのですが、どうにも出来ない状態に遭遇する前に警告を促すようなことも可能になるでしょう。

簡単に考えたらこのような用途ができるようになります。

パスワードロックもマイナンバーカードや運転免許証などを通じて行うことでセキュリティを高めることも可能です。

もちろんこのような番号はネットには流れず、ウェアラブルデバイスの中でハッシュコードと一緒に暗号化することでデバイスやカードを紛失した場合にも応用できるはずです。

いかがでしょうか？

YEYとして、葬儀のマーケティングオンラインセミナーを jFuneral.com を通じて行っております。どなたでも無料でポッドキャストをお聞きできます。ぜひご試聴くださいませ。
Apple Podcast、Spotify、Amazon Musicで「葬送ビジネス」で検索し、ご試聴できます。

シーズン2

<https://jfuneral.com/new-podcast-jfuneral-2021/>

シーズン3

<https://jfuneral.com/podcasts/podcast-jfuneral-season-3-new-2022/>

シーズン4

<https://jfuneral.com/podcasts/podcast-jfuneral-season-4/>

シーズン5

<https://jfuneral.com/podcasts/podcast-jfuneral-season-5/>



Apple Podcast



Spotify



Amazon Music

© 有限会社 ワイ・イー・ワイ 代表取締役 和田裕助

〒253-0053 神奈川県茅ヶ崎市東海岸北5-4-48

email: infodesk@yey.co.jp